



帰国後 (10)

4 月から新指導要領：何が変わる？

この4月から、日本の学校の学習内容が大きく変わる、と聞きました。

なにが、どのように変わるのでしょうか？

また、子どもが通っている補習校の勉強も変わるのでしょうか？



小学校の新指導要領の完全実施で、
学習の量と内容が増加
補習校の学習へも影響か？

新学習指導要領

文部科学省が定める学習指導要領は、小・中・高、中等教育学校や特別支援学校の各学校が教える内容を定めたものです。国・公・私立を問わず、すべての学校での教育に適用されます。指導要領は、ほぼ 10 年ごとに改定されてきており、今回の改訂は 2011 年 4 月から小学校で完全実施されます。

アメリカのように州や学区が公立学校での学習内容を独自に決めると異なり、国が統一した学習の基準を決めるのが日本の教育の特徴です。

改訂のポイント

新しい指導要領では、「ゆとり」か「詰め込み」かではなく「生きる力」を育む教育とし、基礎的な知識や技能の習得と思考力、判断力、表現力の育成を強調しています。

10 年間続いた現在の指導要領は、それまでの知識重視型の「詰め込み教育」をやめて、経験重視型の「ゆとり教育」を導入しました。しかし、導入直後から「学力低下を招く」として大きな批判にさらされました。

そこで、新しい指導要領では、「ゆとり教育」をやめて、「生きる力」を育てる教育を中心にしました。「生きる力」とは全人的な資質や能力を示し、具体的には「変化の激しいこれからの社会を生きる力」を意味しています。

学習の量・内容の増加

新指導要領では、「ゆとり教育」時代に比べて、学習の量と内容が増やされます。

昭和 50 年代の改定以来、減り続けてきた授業時間はおよそ 30 年ぶりに増加となります。小学校の授業時数は 6 年間で現行より 278 コマ増えて 5645 コマ、約 5% 増えることになります。増えた時間は主要科目に割り当てられ、「基礎的・基本的な知識・技能の習得」を徹底し、「思考力・判断力・表現力の育成」を充実させます。

前回の「ゆとり教育」への改訂では、「円周率は 3.14 で

はなく、3として教える」など、学習内容が3割程度削減されました。その削減された学習内容の一部が、今度の改訂で復活します。さらに、今回の改訂では決められた学習内容は「最低基準」とされ、より進んだ学習内容を指導してもよいことになりました。これらの学習内容の増加を反映して、小学校教科書では、従来と比べて平均で 25% ページ数が増加しています。

さらに、小学 5・6 年生に「外国語（英語）活動」の時間が設けられます。時間数は最低週 1 コマとされていますが、時間数を増やす教育委員会や学校があります。文部科学省が作成した全国共通教材「英語ノート」を使って、アルファベットや 285 語程度の単語を学びます。

逆に、前回の改訂の目玉として、完全学校週 5 日制の実施とともに導入された、教科横断的・総合的な課題学習を目指した「総合的な学習の時間」は削減されます。

補習校の勉強への影響は？

今回の改訂で、学習内容の量・質が増えることで、補習校での勉強にも影響が出てきます。

現行の指導要領では、日本に比べて授業時間の極端に少ない補習校でもなんとか教科書を学び終えることができた。しかし、今回の改訂により、学習内容が増え、補習校の授業での学習の量と質が増えることになります。

授業時間数を増やすことは出来ませんので、補習校で指導する先生方が教材の重点化や精選を進め、準備を十分して授業に臨む必要が出てきます。

もちろん、課題や宿題が増えるので、子ども自身の勉強量が増えることも予想されます。もっとも、どの程度学習量が増えるのかは、それぞれの学校や先生の判断により異なるでしょう。

その一方で、「現地校の数学の進度が、日本の教科書よりも早い」という現状が是正されて、「補習校の算数は、現地校の予習」になることを願います。

☆

4 月からのお子さんの日本語での勉強の変化に注意をしておいてください。とりあえず、新しい教科書をチェック！

松本 輝彦